

まえがき

## 一番お伝えしたいこと

世の中にたくさん出回っている本の中から、この本を選んでくださり、本当にありがとうございます。親子関係&軽度発達障がい専門の心理カウンセラー、三浦くみ子です。

この本では、20年以上、親子関係相談・保育現場・小学校現場にたずさわってきた三浦くみ子だからこそ、理論を基にした、実践でたしかに役に立った子育ての方法について詳しくお伝えしますので、これを読むだけで、子どもが生き生きと自立していくような子育てができるようになるでしょう。しかしながら、この本は子育てのノウハウをお伝えすることが主な目的ではありません。

この本で一番お伝えしたいのは、正解のやり方を知っても、なぜかどうしてもそれができない方、子育てがなかなかうまくいかないと思っっている方、いろいろな場面でのイライラとしてしま

う方、とにかく子ども（特に長女・長男）に対してイライラが止められない方などが、なぜ優しく話しかけてあげたいのにできないのか？ なぜ怒鳴ってしまうのか？ 知っていてもできない理由を知ってほしい。そしてそれをできるようになる方法をお伝えするのが一番の目的です。

まず、それはあなたの親が原因というような短絡的な話ではないのでご安心ください。長く深く刻まれた日本の歴史が大きく関係していますし、そんな中でも今までの価値観にとらわれずに新しい子どもとの関係を作っていくこうと取り組むことが、どれだけ大変だけど素晴らしい仕事なのか、どれだけ意味のあることをやろうとしていらつしやるのか、ということを知っていただき、ご自分に自信と誇りを持っていただきたいです。あなたはもうその入口に立ったわけです。おめでとございます。私と一緒にやってみましょう！

## 「日本語の「親子」 英語の「親子」

突然ですが、「親子」という言い方。日本では当たり前すぎて気にも留めなれないと思いますが、英語では「親子」のことを何ていうかご存じですか？ この質問には、残念ながらまだ誰からも「〇です」という答えが出ていません。

それもそのはず、英語にもフランス語にもイタリヤ語にも「親子」という単語はありません。「Parent and Child」というような「親」と「子」という二つの単語なのです。

これが何を意味しているかというと、「親子」というものの考え方・とらえ方が根本的に違う、ということなのです。

日本では、「親子」は「ひとくくり」のもの、そして日本語の縦書き文化のせいでしょうが、親子には絶対的な上下関係がある、というとらえ方があるのです。だから「親である私の意見を聞かないなんてあり得ない！」とイライラしてしまうのです。そして世間も「親子でしょ？」という、産んだ親に責任をいつまでも持たせる考え方、またはその密着性がゆえに、他人が入り込め

ない法律さえも作っています。これでは「地域の大人たちと頼り合いつつ、みんなで子どもたちを健全に育てる」という方法がなかなか取り入れられないわけです。